2021年2月8日

2020年度後期　大学院FDアンケート結果に対する改善報告書

専攻名	日本文学　専攻
専攻主任名	胡　秀敏
教務主任名	胡　秀敏

100文字程度

今期の総評
研究指導と授業内容に関しては、いずれも高い評価を得ており、図書館の配送サービスに対しても満足度が高い。また、学会参加の頻度ははじめて４点台に達している。一方、開設授業科目数への満足度が依然として低いことが課題である。

改善のための方策
各項目への満足度をさらに高めるように努力を続けていきたい。授業科目増設への要望は、他大学との単位互換制度の導入結果を検証したうえで、カリキュラム編成方針に基づき、検討を加えていきたい。

2021 年 2 月 1 日

2020 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語学専攻
専攻主任名	横山紀子
教務主任名	鈴木博雄

今期の総評
回答率は 100%で、好調であった。研究指導の適切性、科目数、将来の見通し、学会参加、研究テーマの見通しに関する評価が低めであった。その結果、大学院に対する総合的な満足度に対する評価も低かった。上の結果の原因として、コロナ禍による状況変化の影響が続いているものと考えられる。

100 文字程度

改善のための方策
大学院に対する総合的な満足度を高めるために必要な研究環境の一層の充実を図るとともに、効果的な学力獲得や学位取得の早期実現を目指した授業運営を創意工夫する。教員間及び教員・院生間の話し合いを通じ、コロナ禍に対応し得る方策を講じる。

2021 年　2 月　4 日

2020 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	英米文学専攻
専攻主任名	川畑　由美
教務主任名	金子　弥生

100 文字程度

今期の総評
全体的に、特にカリキュラム・授業に関しては高評価を得ている。論文指導及び研究指導の満足度も高い。新型コロナウイルスの影響で、院生室の使用が出来なかったことは致し方ないが、学会への参加については、zoom などを利用した大会が開かれるようになってきているので、参加を促す必要があったと思われる。

100 文字程度

改善のための方策
図書館の利用については、予約制ではあったが研究のための利用が出来た点は良かったが、蔵書については院生だけではなく教員からの図書館への購入依頼を積極的に行なっていく。また、将来への不安が大きいことから、キャリア支援課にお願いして大学院生のためのキャリア講演会の実施を開催していく。

2021 年　2 月　2 日

2020 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	言語教育･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻
専攻主任名	西川寿美
教務主任名	西川寿美

100 文字程度

今期の総評
新型コロナウイルスの影響により今学期も多くの科目でオンライン授業になったが、学生の評価は良好であった。学生数が少ないため参加度の高い授業が行えていることに加えて修論指導教員を中心にしたきめ細やかな指導が効果を挙げていると考えたい。課題であった「授業数」、「研究会・学会への参加」に関する評価も 4 点台を確保できた。「研究テーマの進捗」は 3 点台にとどまったが、これは回答者 9 名中 6 名が一年生であることから今後各個人の中での評価は上昇していくものと考える。

100 文字程度

改善のための方策
「研究会・学会への参加」については、引き続き専攻の重点課題として取り組んでいく。「研究テーマの進捗」は自己評価以外に回答学生の在籍期が関係すると思われることから、可能であれば集計結果を在籍学期別に示すことを検討していただきたい。

2021 年　2 月　4 日

2020 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活機構学専攻
専攻主任名	中山　榮子
教務主任名	今城　周造

100 文字程度

今期の総評
カリキュラム・授業については 4 以上の評価であり、博士課程の授業や研究指導には全体として問題がないと受け止めた。 長期履修生が多いので、計画的に研究を重ねているものと思われる。

100 文字程度

改善のための方策
研究指導については、今後とも学生のニーズに合わせて充実させていく。 研究指導のあり方について相談のある人は、専攻主任か教務主任に連絡をとってほしい。

2021 年　2 月　4 日

2020 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活文化研究専攻
専攻主任名	小泉　玲子
教務主任名	野口　朋隆

100 文字程度

今期の総評
カリキュラム・授業については評価が高く、指導教員のもと研究活動が順調に行われていることが伺える。ただし、教育環境・施設については、図書資料、院生控室の設備について不十分さが指摘された。一方、院生主体で実施している文化史学会例会は評価が高いことから、評価の高い部分はより良く、不十分な点は速やかな改善を行い、研究活動をサポートして行きたい。

100 文字程度

改善のための方策
教育環境・施設について、図書資料と院生控室について不十分な点が指摘されている。図書資料は、指導教員の協力を得て、充実を図って行きたい。院生控室は、在籍する院生の要望を丁寧に聞き取り、どのような機器・環境を求めているかを把握した上で、研究しやすい環境を提供できるよう努めたい。

2021 年　2 月　1 日

2020 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活科学研究専攻
専攻主任名	海老沢秀道
教務主任名	秋山久美子

100 文字程度

今期の総評
4 名の院生のうち 1 名しか回答をしていなかった。申し訳ありません。 コロナウィルス感染拡大によって、研究活動に大きな支障が発生したことがうかがえた。具体的には、研究室の諸活動は制限され、また学会への参加も出来なかった。実験・研究のために登校できる日数は限定され、研究の進捗に大きな影響が生じた。

100 文字程度

改善のための方策
院生控室は、研究室内に院生用のデスクが用意されているため、利用されていないようだ。図書館の満足度は十分では無かった。この理由はインターネットを用いた文献検索を多用しているためと思われるが、教員からの推薦図書を積極的に置いてもらうなどの取り組みをおこない、研究環境の整備を進めていきたい。 　登校して実験・研究を行うことを可能にする「対策マニュアル作り」が急務である。

2021 年　2 月　2 日

2020 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	心理学専攻
専攻主任名	松野　隆則
教務主任名	松澤　正子

100 文字程度

今期の総評
新型コロナウィルスの感染状況を踏まえ、授業は一部でオンラインとしつつも、ほとんどの科目で対面授業や実習を実施することができた。院生室も十分な感染対策を行い、ルールを決めての利用を可能とすることができ、合わせて新しい PC の導入も行った。アンケートの結果、カリキュラムや授業内容への満足度は概ね良好で、研究指導も適切であると認識されていることがわかった。図書館や院生室も利用されていることが確認できた。実験室や分析ソフト利用の利便性についてはさらなる改善を望む声もあり、今後の検討課題としていきたい。

改善のための方策
本年度はコロナウィルスの感染症対策のため多くの変則的な対応が発生し、また、学生の実験室や院生室利用などに不自由が生じた。来年度も同様に変則的な対応が求められることが予想されるため、院生の学習・研究環境の維持に配慮し、また学生に対し速やかに、かつ十分な説明を行うことを心がける。実験室や分析ソフト利用の拡充については、関係部署と協議し、実現の可能性を検討していきたい。

2021 年　　2 月　　1 日

2020 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻
専攻主任名	高橋学
教務主任名	鶴田佳子

100 文字程度

今期の総評
今年度は covid－19 の影響下にあり、社会人を中心にオンラインでの授業を受ける環境、図書館の活用、医療機関や実践現場での調査の制限など、研究活動に不自由さが生じた。

100 文字程度

改善のための方策
次年度 1 年制大学院の開設に向けて、2 年制を含め、予算、オンライン教育の社会人への対応(授業時間帯の在り方その他)、図書館の開館時間、院生室の開放時間など改善予定である。

2021 年　1 月　28 日

2020 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	環境デザイン研究専攻
専攻主任名	金子友美
教務主任名	森部康司

100 文字程度

今期の総評
評価の数値としては全体的に良い評価を得ることができた。特に前期、コロナ禍においてオンライン授業を実施していたため設備や環境に対する評価が低かったが、今学期はそれらについて高評価となっている。

100 文字程度

改善のための方策
前期と比較すると院生室の利用に対する満足度は大きく改善された。これは対面授業が復活したことと、院生の要望を随時聞くようにしたことの成果と思われる。今後もこの状態が継続されるようコミュニケーションを大切にしていきたい。

2021 年 2 月 1 日

2020 年度後期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	人間教育学専攻
専攻主任名	石井　正子
教務主任名	中村　徳子

100 文字程度

今期の総評
5 名中 2 名の回答しか得られなかったが、総じて高評価を得た。とくにカリキュラムや授業に関する評価が良かったといえる。ただ教育環境・施設の評価は芳しくなかった。今後は全員が回答するよう促したい。

100 文字程度

改善のための方策
今年度は、パソコンを新規に購入するなど教育環境の充実を図ったが、プリンタの不具合に関するコメントがあったので、次年度はプリンタを購入し、環境改善に努める。オンライン講演会を積極的に紹介するなど、研究活動が活発になるよう促していきたい。